特集

心を癒やす窓辺の装飾

カーテン

窓を飾るカーテンは、部屋の印象を左右する重要なインテリア。カーテンを替えると部屋の雰囲気がガラリとかわり、その部屋で過ごす人の気分も変わります。また装飾としてだけでなく、様々な機能的役割を持つ、住まいには欠かせないアイテムです。

皆さんはカーテンをどのように選んでいますか？今回は、カーテンの役割や選び方、カーテンを含めた〝ウインドウトリートメント〟（窓まわりの装飾全般）の種類などをご紹介します。

カーテンはいつから使われているんだろう?

歴　史

カーテンの起源は、古代エジプト時代、石造りの壁に開けられた穴に獣の皮を掛けて、寒さを防いだのが始まりだといわれています。布が作られるようになると皮が布へと変化し、ベッド周りを覆う使い方が多くなっていきました。これはヨーロッパでも多く見られる天蓋付きベッドの原型です。15世紀に入ると建築物に窓ガラスが誕生し、貴族たちは防寒の目的だけでなく室内装飾としてカーテンで窓を飾るようになりました。その後、時代の流れに伴い、華美で重厚なデザインや曲線をふんだんに取り入れたデザインなど、カーテンの流行も次々と変遷していきます。フランス革命以後は様式の統一も薄れ、さまざまなスタイルが自由に取り入れられるようになりました。

日本では昔から、几帳(きちょう)(ついたて)や御簾(みす)(すだれ)、襖、障子などがカーテンと同じ機能を果たしていました。日本にカーテンが伝わったのは江戸時代の初期といわれていますが、「窓掛け」と呼ばれていました。「カーテン」という名で使われ始めたのは、明治になってからです。はじめは一部の人のみが使う高価な輸入品でしたが、明治末期から大正にかけて国内製造が始まると、カーテンは徐々に広がっていきました。昭和30年代に入ると建築物の近代化や団地の建設ラッシュなどで、一般家庭にも一気に普及するようになりました。

カーテンには
こんな効果が!

役　割

遮熱&保温効果

窓は部屋の中で最も断熱機能が弱い場所です。カーテンを付けることで、外から入ってくる熱や冷気を防ぎ、同時に室内の温度が逃げないようにします。一般的に、厚手でしっかりと目が詰まった織りの生地や裏地付きのものほど、遮熱性・保温性が高くなり、省エネにもつながります。また、カーテンのヒダがたっぷりあるものや、厚手のカーテンとレースカーテンの二重がけにすると、空気の層ができ、断熱効果が上がります。

遮光効果

カーテンは外からの直射日光を遮る日よけになり、部屋の中に入ってくる光の量をコントロールします。光を入れたい時はレースのカーテンが、外光を遮断したい部屋には遮光機能の高いカーテンが向いています。

遮蔽(しゃへい)効果

カーテンはプライバシーを守る目隠しの役目もあります。特に建物が隣接している場合や、道路に面した部屋などには不可欠です。外から中が見えづらい機能をより高めた「遮像カーテン」や「ミラーカーテン」などもあります。

防音効果

カーテンは室内の音の反響を防いで音を吸収するとともに、外からの騒音を和らげる効果があります。大きな音量で映画を見たり音楽をかける部屋では、防音機能が高いものがおすすめです。

装飾効果

インテリアとしても重要な要素であるカーテン。外からも中からも美しく窓を演出します。家具や小物とのコーディネートを考えたり、季節に合わせてカーテンを掛け替えるなど、窓辺のおしゃれを楽しむことができます。

それぞれの
特徴を知ろう!

種　類

カーテン

●生地による主な分類

ドレープ
一般的な織物の厚手のカーテン。保温性に優れ高級感があります。

レース
透過性・通気性のある薄手のカーテン。

ケースメント
ドレープとレースの中間的なカーテン。レースのような透過性、ドレープのようなボリューム感を兼ね備えています。

プリント
比較的平らな生地に、後から柄をプリントしたものです。

●スタイルによる主な分類

センタークロス

センターから左右に分かれる基本的なスタイル。

クロスオーバー

左右のカーテンが上部の中央でクロスし、重なり合う。

片寄せ

左右どちらか一方にカーテンを寄せ集める。

タブカーテン

吊る部分をカーテン生地で作り、レールに通す。

フラップアップ

端をつまみ上げて止める。

カフェカーテン

丈が短く、小窓の部分的な目隠しや装飾用。

シェード

一枚に仕立てたカーテンを昇降装置に取り付け、上げ下げします。装飾性も高く、ヒダやギャザーのとり方、ウェーブの間隔、昇降方法などによってさまざまなスタイルがあります。カーテンとの組み合わせも人気です。

シャープシェード

生地の裏に細いバーが付いていて、ヒダをたたみあげる。下ろすと横ラインが入る。

バルーンシェード

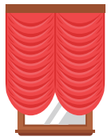
たたむとヒダが風船のように膨らみ、エレガントなイメージに。

プレーンシェード

カーテン生地の表面にヒダやギャザーが生じない、シンプルなスタイル。

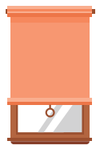
ピーコックシェード

下げると普通のシャープシェードに見えるが、上げていくと裾がピーコック(孔雀)の羽根のように、扇形にたたまれる。

オーストリアンシェード

生地の量を贅沢に使い、全体に細かなタックが付いている。優雅で繊細なウェーブが特徴。

スクリーン

布製のスクリーンを巻きとり式で上下させます。巻き上げると筒状になるので窓まわりがスッキリしてモダンな印象に。設置や開閉が手軽なので、部屋の間仕切りやタペストリーなどとしても使いやすい形状です。

ロールスクリーン

映画を写すスクリーンのように平らな布を巻き上げる。

プリーツスクリーン

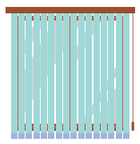
スクリーンにプリーツ(ヒダ)加工が施されている。開くとヒダがたたまれるように下から上がっていく。

ブラインド

シャープな印象が特徴です。開閉する以外に、スラット(羽根)の角度を変えることで採光を調節し、視線を遮ることができます。素材もアルミをはじめ、布や木など多彩です。

ベネシャンブラインド

スラットの向きがヨコ型。色や種類が豊富なので好みのテイストに合わせて選びやすく、カーテンなどとの組み合わせもしやすい。

バーチカルブラインド

スラットの向きがタテ型。冬の陽や、朝日、西日など低い陽射しの調整がしやすい。ヨコ型より、さらにシャープな雰囲気に。

ココをおさえよう!

選び方のコツ

自分がイメージする室内空間や生活スタイルを実現するために、窓の演出は重要な要素です。選ぶときは単体で考えずに、壁や床などの内装や家具との調和を基本に考えましょう。目的や目指すスタイルに合った種類や素材を選ぶことが大切です。

色彩の心理的効果

落ち着いた雰囲気が漂うアイボリーやブラウンなどのナチュラルカラー、元気がでる鮮やかなビタミンカラー、優しい印象のパステルカラーなど、色の好みは人それぞれです。好きな色を取り入れながら、暖色と寒色を使い分けるなど色彩の効果も考えてコーディネートするとよいでしょう。

■暖色の効果

赤やオレンジなどの暖色は、視覚的、心理的に温もりを感じる色。淡いトーンはリビングやダイニングなどにオススメです。鮮やかな暖色は、手前に出て見える「進出色」なので、狭い部屋では圧迫感につながることがあります。

■寒色の効果

青や紫などの寒色は、涼し気な印象を与える色。涼しさを感じたい時に取り入れると効果的です。また、寒色は実際よりも後方に引っ込んで感じる「後退色」で、部屋を広く見せる効果があります。

空間を大きく見せるには

色や柄、スタイルで、高さや広がりを感じさせる効果が演出できます。

■部屋を高く感じさせたいときは…

左右に開閉するスタイルのもの(カーテン・縦型ブラインド)は、上下の開放感を感じさせます。また、縦ストライプの柄は天井を高く見せる効果があります。

■部屋を広く感じさせたいときは…

上下に開閉するスタイルのもの(スクリーン・横型ブラインドなど)は、左右の開放感を感じさせます。色は、ビビッドな色よりナチュラルな色、濃い色より淡い色の方が広く感じます。柄では、小柄やパターン柄が◯。大きな柄のものを小さい窓にかけると、柄のパターンが活かされずに窮屈な印象になるので注意しましょう。

ひとことmemo 1

選ぶときは大きめのサンプルで

柄物も無地も、サンプル帖の小さい見本ではなくできるだけ大きいサンプルで選びましょう。小さい見本は実際の色より濃く見えがちです。また、壁の色や照明、日光の入り具合でも色の見え方は違ってくるので、できれば実際の部屋で見てみるのが確かです。

進化する機能性

最近では、さまざまな機能を付加させた「機能性カーテン」が増え、より快適に、またお手入れしやすくなりました。それぞれの特徴を理解し、取り付ける空間や目的に適した機能を持つものを選びましょう。

機能性カーテンの一例

■遮光

外部からの光を遮り、部屋の中の光を漏らさない機能。外からの視線も遮るので防犯性を高める効果もあります。遮光性能により1〜3級まで等級分けされています。

■遮熱

特殊な糸やコーティングによって太陽熱を妨げる機能。夏の冷房効果がアップし、消費電力の低減につながります。

■防炎

難燃性の糸の使用や防炎加工が施され、燃えにくい機能。キッチンや子ども部屋、高齢者の部屋などに向いています。

■ウォッシャブル

洗濯機で丸洗いしても収縮がほとんどない機能。また色あせや色落ちの心配もなく、短時間で乾かすことができます。

■UVカット

紫外線の透過を低減する機能。フローリングや家具などの変色、畳焼けも防ぐことができます。日射しの強い部屋、赤ちゃんのいる部屋などに向いています。

■消臭・抗菌

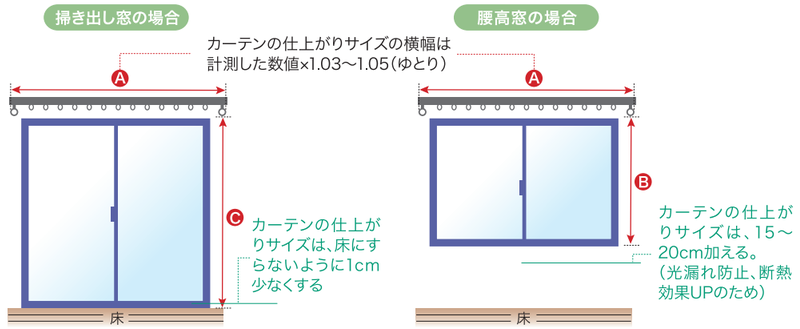
タバコ、生ゴミ、汗などの匂いや生地の表面についた菌の繁殖を抑える機能。ペットがいる住まいにおすすめです。

まず採寸!

サイズ

カーテンを選ぶときには、カーテンをつける窓のサイズを計ることが必要です。カーテンの仕上がり幅は、採寸した窓の外寸に余裕をもたせたサイズになります。

Ⓐ 横(幅)はレールの両端に固定されたランナーの間の長さを測る
Ⓑ 腰高窓の場合…カーテンレールのランナー下から窓の外枠までの長さを測る
Ⓒ 掃き出し窓の場合…カーテンレールのランナー下から床までの長さを測る



※上記の計測値は、注文あるいは購入する際のカーテンの仕上がりサイズです。
2倍ヒダ、1.5倍ヒダ、ヒダなしなどのスタイルの違いによって、カーテン生地の必要量は変わります。

いつもキレイに!

お手入方法

日頃のお手入れが大切

カーテンには、室内外のホコリや手あか、たばこのヤニなど、思っている以上に汚れがついています。日頃から、はたきをかけたり、掃除機のブラシでほこりを吸い取るなどしてこまめにお手入れしましょう。日常的なお手入れは見た目の美しさを保つだけではなく、カーテンそのものも長持ちさせます。

洗濯するときは

洗濯ラベルをチェックし、家で洗うことができるかを確認してください。
洗濯の回数は、年1〜2回程度が目安です。

・カーテンのほこりをはたき、フックを全部はずします。
・カーテンのヒダを揃えて屏風たたみにし、できればネットに入れてください。一度に洗うのは1〜2枚。
・洗濯機の場合、水は「最大」、水流は「弱で」。脱水はなるべく短くします。
・干し方は、元のカーテンレールに吊り、自然乾燥させるのがおすすめです。乾燥機の使用は避けましょう。(生地が変質したり、縮んだりする恐れがあります。)吊ったら、形を整えます。
・屋外で干すときは、必ず陰干しにしてください。
・アイロン掛けは、洗濯表示で可能かどうか、また適切な温度やあて布の有無を確認してから行ってください。

ひとことmemo 2

部屋をトータルでカラーコーディネート

カーテンを他のインテリアと同系色(濃淡・類似色・同じ色を使った柄物など)でまとめると、部屋全体に統一感が生まれ、抑制の効いた落ち着いた雰囲気になります。また、カーテンを新しくするときに、布地を多めに買っておいて、おそろいのクッションやテーブルクロスなどのファブリック(布製のインテリア)を作るのもおすすめです。